

# 環境通信 第19号(12月号)

令和4年12月発行(年4回発行)・発行元:大分市環境対策課・地球温暖化対策おおいた市民会議

アスマるくんとみらいさんが「COP27」について話しているようです。その様子をのぞいてみましょう。

**登場人物**

**みらいさん**  
…環境問題に関心がある社会人

**アスマるくん**  
…大分市地球温暖化防止キャラクター  
「地球(アース)の明日(あす)をまもる」ため、大分市にやってきた。環境問題や地球温暖化対策にくわしい

## COP27(コップ27)が開催されました

**みらいさん** この前、「COP27」のことがニュースになっていましたね!地球温暖化に関して何か動きがあったのでしょうか?

**アスマるくん** じゃあ!今日はCOP27について一緒に学んでいこう!

**アスマるくん** まずはCOPが何なのかを説明するよ。

**みらいさん** はい。

## COP27とは

COP27とは、「国連気候変動枠組条約第27回締約国会議」の英語の頭文字を取った略語で、年に一度、世界の気候変動問題について議論する会議です。近年は、年々上昇する地球の温度と、それに伴い激しさを増す自然災害、南極の氷が溶けることによる海面の上昇など、数々の現象によって地球と地球に住む様々な生き物の生存が危うくなっている状態を前に国際社会がどのような対策を取るのか話し合っています。

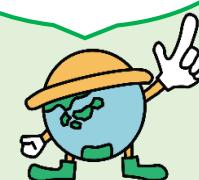
第27回会議は、国や地域の代表、世界中のNGO(非政府組織)、報道関係者が参加し、エジプトのシャルムエルシェイクで2022年11月6日から11月20日まで開催されました。



前回のCOP26では、「産業革命(18世紀)前からの気温の上昇を1.5°Cに抑える」ということが世界共通の目標になりましたよね。



会議の一部を簡単にまとめてみたから、一緒にみてみよう!



## COP27のポイント!

①

「損失と損害」に対応する基金を創設し、特に脆弱な途上国を支援

②

気温上昇を1.5°Cに抑えることの重要性を強調

③

必要に応じて2030年までの削減目標を再検討し、強化する

COP27は干ばつや洪水など気候変動による「損失と損害(ロス&ダメージ)」への対応を初めて中心的な議題にしました。

気候災害など気候変動の悪影響に伴う「損失と損害」への補償を巡っては、30年以上にわたって先進国、途上国の対立が続いてきましたが、COP27で支援のための基金設立という歴史的合意に至りました。

今後、気候変動による被害を受ける途上国を支援する基金の創設に向けて、まず基本枠組みを詰める委員会を12月に発足させます。先進国10カ国と途上国14カ国で構成し、途上国の意見を反映しやすくする見通しです。2023年11~12月のCOP28での採択をめざします。

## 気候変動の影響と途上国

### パキスタン洪水

2022年6月中旬からの豪雨で大規模な洪水が発生しました。パキスタン国土の1/3が水没したといわれています。8月25日、政府は「国家非常事態」を宣言しました。

日本赤十字社によれば、9月2日時点で以下のように推測されています。

- ・死者 1,200人以上
- ・被災者 3,300万人以上(総人口の約10%)
- ・支援キャンプでの生活者 50万人以上
- ・被害予想額 5兆8000億円



出展 PRCS

排出する温室効果ガスが、世界全体の1%にも満たないパキスタンで発生した洪水被害は、温暖化による「損失と損害」を象徴する出来事としてとらえられています。

裏面につづく



## 気候危機と生物多様性減少の同時解決に向けて

COP27開催期間中の11/17は「生物多様性デー」でした。COP27の会場では、気候変動問題と生物多様性減少問題の両方に関連するイベントがたくさん開催されました。

2022年12月には、カナダのモントリオールで生物多様性条約の締約国会議であるCOP15が開催予定で、ポスト2020生物多様性枠組という新たな国際目標が合意予定です。

こうした会議の連続開催という背景もあり、気候変動と生物多様性の同時解決については、機運が大きく高まってきています。

### 生物多様性とは



みらいさん

**「生物多様性」とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのことです。**

地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種といわれる多様な生き物が生まれました。

生命は一つひとつに個性があり、直接的に、間接的に支えあって生きています。

もちろん、「人間」もそのなかの一つの生命体です。



アスまるくん

「生物多様性条約」では、3つのレベルの多様性が示されているよ。

#### 種の多様性

動物、植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな種類の生きものがいること

#### 遺伝子の多様性

同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があること (例) テントウムシの模様、アサリの貝の模様

#### 生態系の多様性

各地に森林、草地、河川、湿地、干潟、サンゴ礁などいろいろなタイプの自然があること

## 気候と生物多様性の危機は表裏一体の関係

産業革命以前に比べ、地球の気温は既に1.2°C上昇しています。

今後、温暖化を1.5°C未満にとどめなければ、気候変動が生物多様性損失の主要な原因となり続けることが予想されています。さらに、気候変動により、生物の生息地と食物がなくなることで、種が絶滅するという事態も起こっています。

気候変動と生物多様性の損失という2つの危機はどちらも、人類が地球の資源を持続可能でないレベルで消費していることが要因です。

2つの危機は相互に影響し合って悪化するため、一方の問題を解決するには、もう一方の問題も考慮する必要があります。

(生物多様性の損失を招く主な直接的要因)

化石燃料の採取、森林・海洋などの開発による生息地の減少、乱獲を招く動植物資源の過剰消費、汚染、侵略的外来種など

(生物多様性の損失を招く間接的要因)

人口増加、社会文化的背景、急速な経済成長、技術開発、不十分な制度・体制、既存の価値観など

### 地球環境・生態系と人間社会の関係 湿地の減少と渡り鳥、鳥インフルエンザ

2018年、ラムサール条約の事務局によれば約半世紀(1970~2015年)で世界の湿地の35%が消失したと報告されています。森林の3倍のスピードで消滅が進んでおり、2000年から一層加速しているそうです。

日本は南米やアフリカに比べると湿地の保全が比較的行われている国と言われています。

しかし、国土交通省国土地理院の調査によれば、明治・大正時代は全国に約2,111km<sup>2</sup>の湿地が存在していましたが、1999年(H11年)には約821km<sup>2</sup>となり、約61%[約1290km<sup>2</sup>、琵琶湖の約2倍の広さに相当]が消失しています。

湿地は渡り鳥にとって大切な生活場所です。シベリアなどのユーラシア大陸各地から来た渡り鳥は、少なくなった湿地で、過密な状態で越冬しなければなりません。このような状況は渡り鳥にとってストレスであり、感染症を発症しやすい条件が揃ってしまいます。

鹿児島県出水市には、人里近くに湿地帯があり、10月以降1万羽以上のツル(特別天然記念物)が越冬します。人里近くでこれだけの数のツルが越冬するのは世界中でもここだけだと言われていて、出水市はラムサール条約湿地自治体の認証を受けています。

今年、出水市では、11月13日までに108羽のツルの死体が回収され、うち28羽から高病原性鳥インフルエンザが検出されました。

また、11月18日、出水市内の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認され、4日間で12万羽の鶏が「家畜伝染病予防法」に基づき殺処分されました。

生物多様性の保全、希少種保護の観点では、生息地の減少に伴う一極集中は、種の絶滅を招くリスクが高くなります。また、人間が野生動物へエサを撒くなどの行為も一極集中につながりかねません。

人がどのようなかたちで地球環境や野生動物に関わっていくのか、再考すべき時代がきているといえます。